

2015.10

事務局（地独）京都市産業技術研究所 デザインチーム（担当:比嘉,竹浪,木戸）  
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91  
TEL:075-326-6100(代表) FAX:075-326-6170(代表)

No.3

# 京都工芸研究会便り

## 1. 設立記念「京都の工芸・逸品」展 着々と準備を進めています。



DMの配布, ポスター(B2サイズ) 掲示などご協力ください。

### ◆交差する三つの輪・・・三研究会の統合

DM(ご案内葉書)ができました。交差する三つの輪で、三研究会の統合を象徴したデザインです。

今回の設立記念「京都の工芸・逸品」展では、会員皆様の逸品の展示によって、「京都の工芸」をPRするとともに、「異業種交流」の場としての研究会の特色をアピールしていきたいと思えます。多くの方々にご来場いただけますよう、DMの配付とご案内をよろしくお願ひいたします。

\*アートスペース余花庵様のおはからいにより、「茶道雑誌」(河原書店)に本展覧会開催の広告を掲載していただけることになりました。

### ◆出品に向けてのご案内

「京都の工芸・逸品」展への出品状況は、現在(9/24)までに、金工16, 漆器6, 竹工8, 陶磁器2, 内装工芸1, 人形1, 仏壇・仏具1, 木工1の36会員から、ご連絡いただいております。展示作品の詳細につきまして、専用連絡用紙に記入くださり、ご返信をお願いいたします。

また、展示スペースに若干の余裕がございますので、あらためて出品を希望される方もご連絡をお待ちしております。

京都工芸研究会設立記念「京都の工芸・逸品」展  
＜開催要領(抜粋)＞ \*詳細は「出品依頼」参照

- 会場 アートスペース余花庵(右図参照)
- 会期 2015年11月10日(火)-15日(日)
- 出品料 無料
- 出品点数 1会員につき1点(シリーズ作品は1点とする)
- 展示条件 1会員1コマ450ミリ×450ミリ角まで(壁面使用も可)



## 2. 設立記念誌「京都の工芸」研究会活動の写真などで提供ください。

例えば研究会の展覧会や見学会等,研究会活動に関連した資料や「懐かしい」「貴重な」「当時が偲ばれる」写真等,お手元にございませつか。その他,記念誌に掲載したい情報がございましたら,事務局までぜひぜひご連絡ください。



### 3. 商品開発事業「オトナの京もの」 デザインコンセプトを決定。

#### ◆デザインコンセプトは「変化」「技術」「伝統」

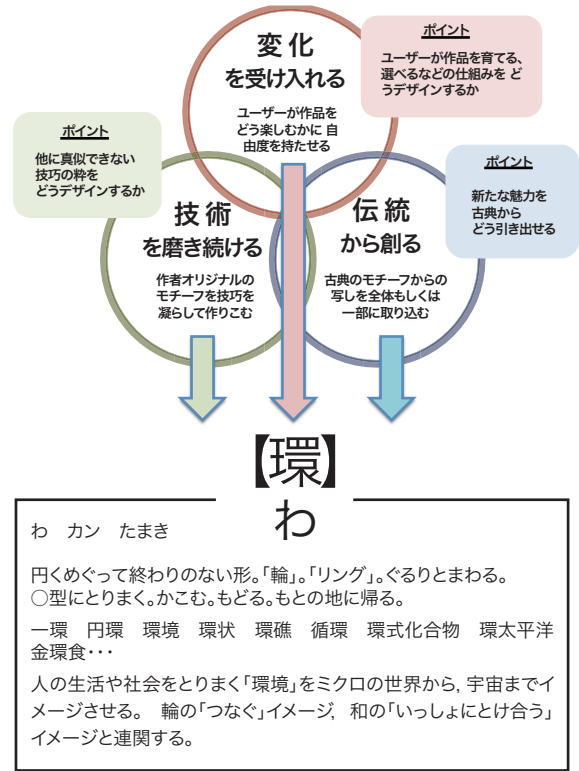
これまでの研修会で、「技術棚卸し」と「イメージキーワード検討」を行いました。これをもとに、「オトナの京もの」のデザインコンセプトとして、3つのカテゴリーとお題を決定しました。(図)

今後は、3つのカテゴリー「変化」「技術」「伝統」から、「環(わ)」をお題としたイメージや、アイデアを起こしていきます。

現在は、12会員(金工、竹工、漆工、陶磁器、香、木工)とデザインチームのスタッフでディスカッションしています。異業種交流といってもなかなか難しい…。しかし、だからこそこれまでになかった面白いものを作れたら…、と考えています。

11月の設立記念展覧会では、「オトナの京もの」商品開発事業の紹介コーナーを設置し、具体的な内容をご紹介します。

事業内容やご参加希望など、お気軽に事務局までお問い合わせください。



京都ラボフェス20145@産技研～夏休みものづくり体験デー～(8/8(土))

### 4. 「竹で遊ぼう」コーナー大盛況。



「京都ラボフェス2015@産技研」は、産業技術研究所を広く市民の皆様を知っていただくため、年1回開催しています。研究所紹介の他、ものづくり技術の体験コーナー、展示販売などのイベントで毎年ご好評いただいております。京都工芸研究会からも会員のご協力により、竹編み等の体験コーナー「竹と遊ぼう」を実施しました。「竹編み体験」では、午前10人、午後12人の子供達と親御さんが参加しました。その他、会員製作の「おはじきとぼし」、「ダイヤ凧」を子供達に配り、その場で遊んでもらいました。会場では子供達のがんばる姿と楽しそうな笑顔が溢れ、盛況に終わりました。

#### 事務局より

##### ○10月の主な予定

- 10/中旬 「オトナの京もの」研修会④ 実施予定
- 10/17(木) 18:00～20:00竹編組勉強会(参加随時)
- 10/21(水) 15:00～第5回委員会

##### ★今年度会費納入のお願い

研究会活動は会員皆様の会費で運営されております。10/4頃を目処に早めの納入をお願いいたします。m( \_\_ \_\_ )m

##### つぶやいていいですか。

我が家には人間のほかに、セキセイインコ、アメリカザリガニ、カブトムシがいます。いずれも息子が持ってきたもので、世話は全て私がしています。手間ばかりかかる割にはなんの役に立つでもなし、媚びるでも芸をするわけでもなく、意思の疎通もありません。彼らは私のことなど全く考えずに生きていて、私は彼らを勝手にかわいがっています。これでいいんだと思います。(た)